



Red Hat build of OpenJDK 11

Eclipse Temurin 11.0.19 のリリースノート

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Eclipse Temurin 11.0.19 のリリースノートには、OpenJDK 11 の新機能の概要と、潜在的な既知の問題と考えられる回避策の一覧が記載されています。

目次

はじめに	3
RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック	4
多様性を受け入れるオープンソースの強化	5
第1章 ECLIPSE TEMURIN のサポートポリシー	6
第2章 ECLIPSE TEMURIN の機能	7
新機能および拡張された機能	7

はじめに

Open Java Development Kit (OpenJDK) は、Java Platform Standard Edition (Java SE) のオープンソース実装です。Eclipse Temurin は、OpenJDK 8u、OpenJDK 11u、および OpenJDK 17u の 3 つの LTS バージョンで利用できます。

Eclipse Temurin のバイナリーファイルは、macOS、Microsoft Windows と、Red Hat Enterprise Linux や Ubuntu を含む複数の Linux x86 オペレーティングシステムで利用できます。

RED HAT BUILD OF OPENJDK ドキュメントへのフィードバック

エラーを報告したり、ドキュメントを改善したりするには、Red Hat Jira アカウントにログインし、課題を送信してください。Red Hat Jira アカウントをお持ちでない場合は、アカウントを作成するように求められます。

手順

1. 次のリンクをクリックして [チケットを作成します](#)。
2. **Summary** に課題の簡単な説明を入力します。
3. **Description** に課題や機能拡張の詳細な説明を入力します。問題があるドキュメントのセクションへの URL を含めてください。
4. **Submit** をクリックすると、課題が作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

第1章 ECLIPSE TEMURIN のサポートポリシー

Red Hat は、一部の Eclipse Temurin のメジャーバージョンをサポートします。一貫性を保つために、これらのバージョンは、Oracle が Oracle JDK 向けに長期サポート (LTS) を指定しているバージョンと同じになります。

Eclipse Temurin のメジャーバージョンは、最初に導入された時点から少なくとも 6 年間サポートされます。詳細は、[Eclipse Temurin のライフサイクルおよびサポートポリシー](#) を参照してください。



注記

RHEL 6 のライフサイクルは 2020 年 11 月に終了します。このため、Eclipse Temurin はサポート対象の構成として RHEL 6 をサポートしません。

第2章 ECLIPSE TEMURIN の機能

Eclipse Temurin には、OpenJDK のアップストリームディストリビューションの構造の変更は含まれません。

Eclipse Temurin の最新の OpenJDK 11 リリースに含まれる変更点とセキュリティ修正の一覧は、[OpenJDK 11.0.19 Released](#) を参照してください。

新機能および拡張された機能

次のリリースノートを確認して、Eclipse Temurin 11.0.19 リリースに含まれる新機能と機能拡張を理解してください。

デフォルトで有効になっている TLS プロトコルから SSLv2Hello および SSLv3 プロトコルを削除

SSLv2Hello および SSLv3 は、しばらくの間安全とはみなされていないため、デフォルトで無効になっている SSL プロトコルのバージョンです。SSLv2Hello および SSLv3 プロトコルは、より安全で最新の TLS プロトコルに置き換えられ、ユーザーは TLS バージョン 1.2 または 1.3 に切り替えることができます。

OpenJDK 11.0.19 リリースでは、デフォルトで有効なプロトコルのリストに SSLv2Hello と SSLv3 が含まれなくなりました。したがって、**`jdk.tls.disabledAlgorithms`** セキュリティプロパティから SSLv3 を削除しても、次のメソッドは SSLv3 を返さなくなります。

- **`SSLServerSocket.setEnabledProtocols()`**
- **`SSLSEngine.setEnabledProtocols()`**
- **`SSLParameters.getProtocols()`**

ここで、SSLv3 を有効にする場合は、コマンドラインで **`jdk.tls.client.protocols`** または **`jdk.tls.server.protocols`** システムプロパティを使用するか、次のメソッドのいずれかを呼び出してプログラムで SSLv3 を有効にする必要があります。

- **`SSLSocket.setEnabledProtocols()`**
- **`SSLServerSocket.setEnabledProtocols()`**
- **`SSLSEngine.setEnabledProtocols()`**

[JDK-8190492 \(JDK バグシステム\)](#) を参照してください。

Certigna (Dhimyotis) ルート認証局 (CA) 証明書が追加される

リリース OpenJDK 11.0.19 では、**`cacerts`** トラストストアに Certigna (Dhimyotis) ルート証明書が含まれています。

- 名前: Certigna (Dhimyotis)
- エイリアス名: certignarootca
- 識別名: CN=Certigna, O=Dhimyotis, C=FR

[JDK-8245654 \(JDK バグシステム\)](#) を参照してください。

listRoots メソッドが Windows で使用可能なすべてのドライブを返す

以前のリリースでは、Windows システムの **`java.io.File.listRoots()`** メソッドは、アクセスできないディスクドライブやメディアがロードされていないディスクドライブを除外していました。ただし、このフィルタリングにより、目に見えるパフォーマンスの問題が発生しました。

リリース OpenJDK 11.0.19 では、**listRoots** メソッドは、使用可能なすべてのディスクドライブをフィルタリングせずに返します。

[JDK-8208077 \(JDK バグシステム\)](#) を参照してください。

強化された Swing プラットフォームのサポート

OpenJDK の以前のリリースでは、HTML オブジェクトタグがレンダリングされ、Swing HTML コンポーネントに埋め込まれていました。リリース OpenJDK 11.0.19 では、新しいシステムプロパティ **swing.html.object** を true に設定した場合にのみレンダリングが行われます。デフォルトでは、**swing.html.object property** プロパティは false に設定されています。

JDK バグシステムリファレンス ID: JDK-8296832

改訂日時: 2024-05-10